

(2) 新しい技術

新しい技術を使って、品質が良く、たくさん収められる品種をつくり、野菜など1年中いつでも収穫できるように作り方をくふうしたりして、消費者によるこぼれる農産物をつくる努力が行われています。

① 作物の品種の改良～オリジナル品種

栃木県は、日本一のいちご生産県ですが、こうなるまでには、おいしいいちごをつくりたいという願いをこめて、新しい品種への改良を行ってきたことが大きく関係しています。

オリジナルの品種としてはじめてつくったのが「女峰」でした。あざやかな赤い色、きれいな形、上品な甘さのすばらしいいちごで、たちまち人気となりました。その後につくられた「とちおとめ」は、さらにおいしく改良されて、今では県内だけでなく、広く日本で生産されています。

最近開発された「スカイベリー」は、とても大きくて、おいしく、形もきれいで病気にも強く、たくさん収められることから、次のスーパースターとなることが期待されています。また、夏に収穫できる「なつおとめ」という品種もあります。

長い時間をかけた品種改良の努力で、今では一年中、おいしいいちごが食べられるようになりました。

いちごの品種ができるまで



① 雄しべを取り除く

2～3月頃に、母とする花の雄しべを取り除き、父とする花の花粉を付けます(交配といいます)。1年間に約70組の母と父の組合せを交配します。



② 花粉を付け交配する



③ なえを育てる。

交配してできた種子からなえを育てます。1年間に約1万株を育てます。



④ 良い株を選抜する。

収量、食味、耐病性など様々な特性を調べ、優れたものを選抜します。選抜は2年～6年かかります。



⑤ 優れた品種候補ができる

特に優れたものが品種となります。新品種の誕生には10年かかると言われており、実に10万株の中から選び抜かれて誕生します。



新品種「スカイベリー」
(実際の大きさ)